

# 瀬戸ジャイアンツ(せとジャイアンツ)

登録番号：第 1859 号

登録年月日：平成元年 3 月 27 日

登録者：花澤茂（岡山県岡山市瀬戸町下  
274 番地の 6）  
大森豊徳（岡山県赤磐市五日市  
215 番地）

育成者：花澤茂 大森豊徳

来歴：「グザルカラー」と「ネオ・マ  
スカット」の交雑実生

育成地：岡山県岡山市瀬戸町下 274 番地  
の 6

## 特 性

### ■栽培特性

樹勢は強く、新梢伸長は旺盛で、葉の大きさも「ロザリオビアンコ」、「翠峰」に比べて大きい。発芽期は「翠峰」より 2 日、「ロザリオビアンコ」より 5 日早い。開花期は「翠峰」より 4 日遅く、「ロザリオビアンコ」より 1 日早い。花穂の着生は比較的良好のため長梢剪定栽培、短梢剪定栽培のどちらでも可能である。雄ずいが反転性のため種有り栽培では生産が不安定である。しかし、ジベレリン処理による種無し栽培で生産が安定する。

### ■果実特性

成熟期は 9 月下旬～10 月上旬で「ロザリオビアンコ」と同時期かやや遅い。ジベレリン処理により果粒重は 14～18g 程度になり、果粒は倒卵形である。また、心皮数により果粒に 2～3 の溝状の筋が現れる特異的な形を示す。1 果房内で心皮数の異なる果粒が混在する場合が多い。果皮は黄緑色である。果肉は硬く締まっている。果皮の厚さは「ロザリオビアンコ」に比べて非常に薄く、掛け袋やハサミなどの物理的損傷による傷が発生しやすい。果皮と果肉の分離は難である。しかし、果皮が非常に薄いため果皮ごと食することも可能である。果粉は少ない。果点の発生も少なく、ジベレリン処理果でもほとんど発生がみられない。酸含量は 0.3～0.4% 程度であり「ロザリオビアンコ」、「翠峰」に比べて低く、酸の低下も早い。糖度は 16～17% 程度で香りはなく、果汁の多少は中である。成熟期に果皮の一部が褐変することがある。「ロザリオビアンコ」、「翠峰」に比べて日持ちは長く、脱粒もしにくい。まれに果頂部の柱頭痕を中心にした裂果や果底部付近の三日月状の裂果が発生することがあるが、その程度はわずかである。なお、若木時には果粒が大きくなりにくい傾向があるが、樹勢が落ち着いてくると果粒肥大は良好になる。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

べと病や灰色かび病には弱く、降水量の多い地域では雨除け栽培が望ましい。また、「ロザリオビアンコ」、「翠峰」と比較してうどんこ病やスリップスの被害が多い。

種無し栽培では花穂の先端 4～5cm を用いる。満開から満開 3 日後および満開 10～15 日後にジベレリン 25 ppm を花房（果房）に処理する。摘粒は 6cm の穂軸に 40～45 粒程度とすれば 650～700g 程度の果房が得られる。

黄緑色品種のため、極端な大房や着果過多には十分に注意する必要がある。収量の目安は栽培条件により異なるが、2.2t/10a 程度と考えられる。

誘引時に新梢が基部から外れやすい。このため誘引作業はできるだけ遅らせるとともにねん枝を行い新梢の欠損を防ぐ。

### ■地域適応性

気象条件や土壌条件に対する適応性は広い。ただし、樹勢が旺盛で新梢が徒長しやすく充実が不良となりやすいため、凍害の発生に注意が必要である。また、べと病などの病気に弱いため、生育期に降雨の多い地域では防除を徹底しなければならない。このため基本的には雨除け栽培が望ましい。

(尾頃教郎)